



燈火～ともしび～

三国丘高等学校 78 期
第 37 号 R. 6/4/24

こんな日を待っていたんだ 三丘祭

皆さんこんにちは。生徒会執行部です。

まず初めに、三丘祭楽しんでいただけましたか？

3日間という短い期間でしたが、少しでも皆さんに笑顔をお届けできていたら嬉しく思います。

そもそも、なぜ三丘祭をしたのかというと、三丘祭を行うことで、個性や特技をアピールするだけでなく、普段関わることのない、他学年の生徒や先生方と関わることが出来ると考えたからです。またそのような交流によって、先生方、先輩方との距離感も近くなり、学校全体の活性化にも繋がると考えました。三丘祭を通して、生徒会での活動を学校全体の活動に広げ、三国丘高校の一体感を強めることが出来たと思います。

準備運営を行う上で、1 から企画すると、想像以上に時間がかかるため、計画的に仕事を割り振る事の重要性に気づきました。これまで、何度もリハーサルを失敗して、それを活かして本番自分たちなりに最高の演出にすることができたと思います。また、自分たちが想像していた以上の人が集まったので、出演者も生徒会執行部も色々な人に知ってもらえうきうきかけになったのではないかと感じています。

三丘祭も無事終わり、これから文化祭が始まります。三丘祭はすべての準備を執行部が行ったのですが、文化祭は準備を生徒全員で行います。その中で最も大切なのは「報告、連絡、相談」ですね。どの集団においても大切ですが、クラス単位での準備においては特に重要です。そのためには、文化祭までの段取りや締切などを皆さんが文化委員と同じレベルで把握しておかなければなりません。分からないことがあったら文化委員に聞き、文化委員でも分からないことがあったら執行部や文化祭担当の先生に聞いてください。

文化祭でクラスの雰囲気が決まるので、文化祭が体育大会、球技大会の勝敗を分けても過言ではないです。中間の得意不得意を見極める能力や「報連相」を円滑にできる能力を文化祭で養い、文化祭で学んだことを他のことに活かせる文化祭にしてほしいと考えています。

最後になりましたが、生徒会執行部は『誰かに気を遣いすぎず、自分がしたいことを素直にできる学校』をこれからも目指していきます。迷いなら捨てて後腐れなしで(WANIMA の名言)にもあるように、どんな失敗して、間違えることを恐れない学年にしていきたいです。最後まで読んでいただきありがとうございます。